

此ろく儀、被_レ勾引何宿に候哉、旅籠屋に四五日罷在、夫より不見知男差添、山駕籠に筵を掛け、往來道筋不見様いたし、所々連歩行坂本宿にて、損いたし候間、二三年も可賣由申談何宿に候哉、ろくを差置、右附添候男は歸候間、夜中逃出し、上州水沼村又兵衛方へ駈込候旨申之、御關所の外、山越いたし候哉も一向不存事にの得ば御構無之、親彦八へ可相渡哉と相伺、其通被_レ仰渡候事。

〔時秋物語〕相模のくに足柄山にきにけり、こゝにてよしみつ馬をひかへていはく、とゞめ申せどももちひたまはで、これま_レともなひたまへる事、そのこゝろざしふかし、さりながらこのやまのせきたやすくとはす事もあらず、よしみつは所職を三拜申て、みやこをいでしより、命をなきものになしてまかりむかへば、いかなるせきにてもは_レかるまじ、かけやぶりととほるべし、それにはそのやうなし、是よりかへりたまへといふを、時秋なほうけひかず、またいふ事もなし、_下略

〔近代公實嚴秘録〕不破兵左衛門箱根の關破の事

爰に不破兵左衛門と云浪人者有、江戸青山邊に住居しけるが、子細有之、一族の事に付、播州へ赴かずしては、不叶用事有、急用と見えたり、_上まかれば夜を日に繼ても可參所なれども、身貧にして萬事ふつ、か、其上に女子一人十一才、男子一人九才に成るを持ちけり、_中略 不破不敵の者にて、二人の子どもを召連、上方へ赴く、然るに女子は箱根の通り手形六ヶ敷御留守居の判なくては難通ければ面倒なりとて、彼女の子を、頭を剃て野郎あたまにして、男子の風俗にかへつれておもむきけり、あつはれ不敵の事なり、かくて兵左衛門は子ども召連て箱根へ掛り關所にて申ことわり、男子二人無相違御通しと申ければ、何事なく欺きおほせて通りけり、_中略 關所破りと云は、關の外閑道杯を忍び通るをいふなり、關所を欺き偽り通るは關所破りとはいわれず、關守も油